

私たちの街 川崎では 多くのボランティアグループ、家族会等の
人々が、地域の中で認知症の方と家族を支えています。

一人で悩まないで！
・ ・ ・ ご相談ください

多摩区

- ♥ボランティアグループ コスモス 政所 922-7628
 - ♥にっこり会 吉田 933-3959
 - ♥ほがらか会 山田 877-9213
 - ♥いずみ 田口 944-4313
 - ♥ひらいサロン 平井 822-4817
 - ♥together 中條 944-2937
 - ♥ワークス・コレクティブ「やどりき」 古閑 945-6616
 - ♥在宅サポートセンター生田 金田 955-1711
- ◇ありの実

高津区

- ♥在宅介護者の会 原田 777-6028
- ♥なつめ 吉田 811-0754
- ◇高津子母口の会

中原区

- ♥やよい会 祖本 411-3340
- ♥青空クラブ 観川 422-7325
- ♥コスモスの会 吉野 766-5162
- ♥ケアハウスこだま 435-6274
- ♥ほほえみ 井上 433-7907
- ♥マグマクラブ 駒内 777-4900
- ♥ホットスペース中原 佐々木 777-7599
- ♥さくら会 渡辺 422-2014

- ♥ネットワーク所属(平成20年)
- ◇会友
- ◆ネットワーク自主活動

川崎区

- ♥ビーボーの会 荒木 266-3662
- ♥りんごの会 柏原 233-3651
- ♥紙ふうせんの会 井上 333-0954
- ♥まちのえんがわ ひまわり 千葉 333-8076

- ◇和み庵
- ◇トラジの会



- ♥司法書士福祉ボランティアの会 小山 211-2811
- ◇川崎市地域ケア研究会

麻生区

- ♥はなみずきの会 柿沼 988-4427
- ♥グループとも 953-8656
- ♥いちご会 永野 965-1918
- ◇たま・あさお精神保健福祉をすすめる会
- ◇ASA健康井戸端会議

宮前区

- ♥宮前すみれの会 鈴木 976-0117
- ♥水曜会 福島 944-9603
- ♥すずの会、だるまの会 鈴木 755-7367
- ◇木洩れ日の会
- ◇新ミニデイいちょうの樹

幸区

- ♥すみれの会 飯田 588-0383
- ♥こころのふるさとホーム 渡部 543-7017

- ◆相談活動「サポートほっと」
- ◆啓発寸劇「劇団SOS」
- ◆若年認知症グループ「どんどん」 中川 080-1081-3033
- ◆ボランティアグループ「ねこの手」 今西 090-6549-5990

川崎市認知症ネットワーク

代表 柿沼 矩子 麻生区王禅寺西7-9-34 988-4427
事務局 中川 和子 麻生区王禅寺東2-38-8 954-6988

認知症介護の悩み相談

介護に悩んだり、困ったとき・・・
疲れて、ほっとしたいとき・・・

サポートほっと



☆お電話ください ☆直接お話しにいらっしやしませんか

受け付け時間 毎週月・火・木・金曜日 10:00~15:00
でんわ・FAX 044 (739) 8728

◇相談室

川崎市総合福祉センター
(エポックなかはら6F)
〒211-1053 川崎市中原区上小田中622-5

◇相談員

介護の体験を持つ家族仲間、地域で
ミニデイサービス等、支えている
グループのメンバーです。

◇相談内容は秘密厳守いたします。

◇サポートほっとは

(株)川崎市社会福祉協議会の委託事業です。



★ JR 南武線 武蔵中原駅前 徒歩1分

実施団体 川崎市認知症ネットワーク

DONDON (どんだん) で
仲間を生きよう!

人生のまっ只中を襲う「若年認知症」は、当事者と家族に多様かつ深刻な困難をもたらす病気です。しかし、事態へのやりきれない無念さをかみしめながらも、私たちはなお、このようにも思うのです。「一番だいじなことは、人生を大切に、自分らしく、イキイキと生きること」。それが認知症者の願い、家族の願いです。DONDONは、サポーターを含めて、そうした願いを共に体験する仲間たちの集まりでありたいと考えています。

since July 2006



若年認知症グループ

あなたもサポーターになりませんか

若年認知症当事者の活動をサポートして楽しく充実した時間を実現するボランティアです。

「どんだん」には現在、認知症介護経験者のほか、介護・福祉の専門職が参加しています。

しかし、当事者がよりイキイキと輝ける活動、充実したサポートを実現していくには、更にさまざまな知識・経験・能力を持った人材が必要です。社会人・学生・性別・年齢を問いません。ぜひご参加ください!

共に希望を求めて、多くを考え、努力していきましょう。

- 対 象 おおむね65歳以下の認知症当事者・家族
日 時 毎月第4火曜日
主 に 11:00~16:00
(活動内容によって変更することもあります)
場 所 主 に 川崎市の中・北部
参加費 500~1000円程度 (内容によって)
連絡先 080-1081-3033
(中川和子:代表)
dondonkawasaki@hotmail.co.jp



川崎市内の認知症家族会・ボランティアグループ・福祉NPOの連絡組織です。認知症への社会的理解を高め、当事者・家族により良い地域環境を提供するためにさまざまな活動に取り組んでいます。また川崎市社会福祉協議会から委託を受け、認知症介護相談「サポートほっと」を実施しています。

認知症介護の専門家

月・火・木・金 10:00~15:00

川崎市認知症ネットワーク 自主活動

若年認知症の社会参加就労支援 「ジョイント」の活動からみえたもの

特定非営利活動法人
若年認知症サポートセンター
ジョイント 所長 比留間ちづ子
スタッフ 岩川 清子
2008. 07. 17

若年認知症の現実的課題

- ・ 病気による生活の中断
- ・ 経済的問題／家庭の困惑
- ・ 自分がどうなっていくのか、不安
- ・ 社会的な離断と孤立
- ・ 進行と介助／介護の将来不安

☆若年認知症の課題に対応する社会的な支援システムがない。

「ジョイント」の挑戦課題

- ・ 本人の「仕事をしたい」を実践するには？
- ・ 個性と能力を発揮するには？
- ・ できる限り、現状の生活を維持する！！
- ・ 地域活動へ ソフトランディング？
- ・ 地域の支援の輪も広げたい！！

☆社会と／人々と／自分らしさと・ジョイント

「ジョイント」事業の役割

- ・ 平成19年度 厚労省老健局補助金事業
- ・ 社会参加支援実践モデルの試行的企画
- ・ 地域貢献活動や就労型活動の試行

☆今後の若年認知症への対応策の検討へ
役立てる。

ジョイント実施の概要

- ・ 厚労省事業
平成19年10月～平成20年3月(23週)
- ・ サポートセンター事業
平成20年4月～平成20年8月(予定)
平成20年9月～ 新規企画

ジョイントの活動方式

- ・ 週3回開所 10:00am～3:00pm
- ・ 所長、専任2名、非専任(専門職)4、サポーター
- ・ タイムレコーダー、名刺、名札着用
- ・ 朝のミーティング、昼食は定食屋、活動日誌記入

参加者の概要

- ・ 男性7名 54歳～64歳
うち1名中止、その後1名追加
- ・ 退職後 1年～4年(休職中1名)
- ・ 参加頻度 週1回～3回
- ・ 参加範囲 都内、神奈川、埼玉
- ・ 自主通所 2名
- ・ 見学など 5名(参加困難1名、不参加3名)

開始前の懸案事項

- ・ 対象者の選定基準、範囲
- ・ 認知、能力などの把握
- ・ 活動の種類や、仕事としての範囲
- ・ 活動量、疲労の限界
- ・ リスク：無断退出、道に迷う 情動不安
- ・ 健康管理：服薬、食事 など
- ・ 対応するスタッフ側の体制、人数、対応

開所当初の模索

- ・ 自己紹介
- ・ 周辺地域の探索・散歩・撮影・挨拶回り
- ・ やりたいことの聴取、可能な限りの実施
- ・ 必要物品を買いに出かける
- ・ 昼食をともにし、昼食後はソファで談話
- ・ 本人同士の交流、協働作業の依頼
- ・ 仕事の様子をスタッフが口頭で表現する
- ・ 活動の主体は本人、スタッフは指示を受ける側。どうすればいいかを尋ねて協力する。

ルールづくり

共有の認識をもつこと
了解困難な時にそのルールに戻る方式

1. 「社会参加をしていくための仕事の場所」
2. 「みんなで仕事をする。他の人を手伝う」
「やりたいことだけではない」
「自分だけで頑張らない」
「みんなに相談しよう」

経過の概要

- ・ 19年10月 活動の模索・折込作業
" 日比谷公園でイエローバッジ販売
- ・ 19年11月 「なんでも介護文化祭」で企業の協力員、作品展示
- ・ 19年12月 専門職講習会講師、忘年会
- ・ 20年01月 カレンダー・絵ハガキ作成の企画
- ・ 20年02月 地域サポーター養成講習実地講師
- ・ 20年03月 作品制作活動の安定、集中
- ・ 04月花見、05月企業見学、06月四谷ひろば

活動の段階的進展

- ・ 所属がある。仲間である。
- ・ 個人作業への挑戦、再学習
- ・ 他者の個性への認識による自己認識
- ・ 本人同士の適度の距離
- ・ 客観的(社会的)視点の回復、再認

ジョイントの活動の種類

- ・折込発送
- ・写真、絵画、工芸
- ・イベント援助
- ・公園と道のサポーター
- ・地域交流
- ・企業見学
- ・講演講師・見学者や取材対応
- ・OA/絵ハガキやカレンダー制作

“仕事”の実施には・・・

- ・認知症で生じる遂行機能障害

手順を忘れる、違うことをやる。
 何度も同じことを聞く。
 道具を正しく扱えない。
 向きをそろえない。整頓しない。
 細かい配慮をしない。先を急ぐ。
 粗雑。こだわりすぎて先に進まない。
 注意されても直らない。怒る。

☆それがわかっているから・・・

作業の原則

- ・「準備も作業」の原則。
- ・「いち動作」の原則(いち工程ではない！)
- ・「手本を提示。自分で確認」の原則
- ・「小さな目標、できたら次へ」の原則

活動分析と準備

手順を忘れる。
 何度も同じことを聞く。
 道具を正しく扱えない。
 向きをそろえない。
 整頓しない。
 粗雑。
 先を急ぐ。
 こだわりすぎる。
 注意されると怒る。

途中経過の見本を用意。
 一区切りの目標を決める。
 目標値は少なく設定する
 手順を細分して一つやる。
 道具を使わない作業
 本人がやれる向きに配置

納得と客観化

- ・こだわって進めない。先を急ぐ。注意すると怒る。

↓

自分が記憶し、これ！と思えたことに捉われる。
 自信がなく、不安だからこそ、他の方法が出ない。

↓

- ・仕事や動作の逐一をスタッフが口頭で表現する
- ・どうしたらいいだろうか？と「止まる間」を作る。
- ・事態の是非ではなく、実践の努力を浮かびあがらせる。

ジョイントの活動交流の実際

- ・原疾患による違い
 アルツハイマー型
 ピック病・前頭側頭型
- ・個人差
 職業経歴
 性格
- ・家族や支援環境

経過・変化(アルツハイマー型)

年齢	性別	HDSR / 30 MMSE / 10			ジョイントでの行動	家庭生活	
		初期	中期	再再			
A 67	♀	9/15 4	12/22 11	12/22 11	通所中止 にこやかで運動 グループ活動済み	デイ 週3回 次と一歩。	
B 64	♀	9/15 3	12/22 10	12/22 7	文章が 当初状態に入れな かったが、辨かに読 字を練習、パソコン。	デイ 週2回、電車 で一人で帰宅し てしまう。	
C 59	♀	9/15 18	11/7 15	11/7 14	随時記 憶低下 が著明	状況判断が難しく、通 所困難、交渉力無、 文字を練習している。	ほとんど無為。
D 54	♀	9/15 18	11/7 19	11/7 22	維持	運動、郵便作業にも 挑戦する、読書量多 く書字が回復。	デイ 週1回

アルツハイマー型の特徴

☆周囲状況の把握の正確さ

☆对人的配慮の高さ

・★自分の中での混乱や困惑の自覚が継続

↓

・☆穏やかに日々が過ぎることへの希求

経過・変化(ピック・前頭側頭型)

年齢	性別	HDSR / 30 MMSE / 10			ジョイントでの行動	家庭生活
		初期	中期	再再		
E 57	♀	9/15 18	12/22 20	12/22 18	運動の中に常に数単語、 制作会話を積極・実践、 高い目標。	デイ 週1回 定での感情維持が 収まってきた。
F 65	♀	9/15 5	12/22 12	12/22 8	緻密な構成作業に集 中し、誇りをもつ、すべて 手紙に記帳。	長年習得や非習得の 多量通り行動、デイ 週1回を週3回開始。
G 56	♀	9/15 12	11/7 18	11/7 22	自分の趣味のみを話す。 最終協議は意図的にく いがルールを守る、意 意と随時随時性低下。	マイペース、食べ過ぎ、 若い適者の抑 制困難、入浴方法 がわからなかった。

ピック・前頭側頭型の特徴

☆現実感覚への即応・精密な写生的行動

☆目標設定が高い

☆活動への促進

★様々な知覚・感覚が同質で、同時に入力

↓

・☆出来るだけ多くの事をしないではいられない

活動能力傾向の個人差

・職業経歴 長期記憶 手続き記憶
管理職レベルの状況判断
配慮の深さ 広さ
見通しのレベル
現状の環境の分析力

活動意欲と情緒の安定性

・性格 外向性 内向性
自己顕示性 自己保有性
几帳面 おおざっぱ など

・家族や支援環境
本人への信頼度 本人の選択
行動ベースの理解 待つ
直接的な対話 会話
チャレンジへの機会

ジョイントで見られた能力発揮

- ・ 各種作業の工夫や効率アップ
- ・ 新規の活動開拓
- ・ 相互の交歓 交流
- ・ 地域行政との交渉
- ・ 訪問者や第三者の理解への配慮

- ・ 生活のリズムの復活
- ・ 落ち着き 会話や家での活動の復活
- ・ 配偶者の優しさが復活

社会参加の地域環境条件

- ・ 「若年認知症」本人の状況を知る
- ・ ふつうの暮らしのなかでの些細な支援
- ・ 地域そのものお互いの安心感

- ・ もしか？の時の相談窓口
- ・ 社会資源メニュー(送迎、ヘルパー)
- ・ 企業側の対応指導
- ・ (再)就労支援システム

現状の支援策の問題

- ・ 自立支援法では、精神障害者手帳が必要
- ・ 就労支援 ジョブコーチ制度の適応がない

- ・ 介護保険法のデイサービスでは、
対象(高齢者)と活動メニュー(画一的)が不適
- ・ ショートステイが使いにくい
- ・ 介護保険の施設スタッフ配備の少なさ

ジョイントの事業評価

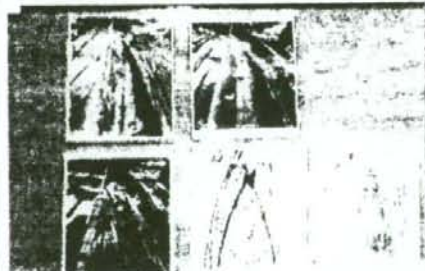
1. 若年認知症の社会参加支援が必要
2. 就労型活動が、壮年期には必須
3. 生活の再建、維持にも有効
4. 地域交流活動の一つの核になりうる
5. 支援システムと就労支援システム策の
取り組み課題を提示
6. 早期に家族と将来への取組方の準備
7. 本人が認知症の実態を語り、対策に貢献

ジョイントの今後

- ・ 新たな社会参加活動の開拓
- ・ 適する「仕事」の開発
- ・ 地域型 企業内型 など

- ・ 全国各地での『ジョイントα』への応援
- ・ 生活全体の充実策の探索と試行

これからもご支援をお願いします。



JOINT

若年認知症社会参加支援センター

知っていますか？若年認知症？早期発見・リハビリ・活動

アルツハイマー病やピック病などで40歳～50歳で発症する若年認知症は推定3～5万人といわれています。ちよっとした記憶障害、やり慣れたはずのことで失敗する、微妙な性格変化などが気づかれても、うつ病やストレスのせいと誤認識されたまま過ぎ、早期の発見・治療が遅れているのが現状です。人生の円熟期での発症は、経済的にも家庭関係でも打撃が大きく、何よりも本人がひとりりで状況の打破を試みる孤独な苦渋の状況が続く、いわゆる行動障害を複雑にしているという経過の問題があります。知識的普及と社会的な支援策が緊急の課題です。

若年認知症の特性は、身体能力が維持され、記憶障害や言語的コミュニケーションのつまづきがあっても、長年培った円熟した職業感性や技能が残存し、個人それぞれの人生課題へのチャレンジ意欲が高く持続されていることです。普通の病氣や障害の場合と同様に、新たな生き方を応援するといった観点から、友人的で地域的な支援が必要とされます。

JOINTは 2007年度厚生労働省補助金事業で創設され、2008年はNPO法人 若年認知症サポートセンターが運営し、現在は、9月23日よりNPO法人に向けて活動していきます。就労型活動や地域貢献活動などの社会参加を實踐し、その人らしい生き方へのソフトウェアをサポートする地域のネットワークを開拓し、「ともに輝く地域づくり」のソフトウェアを全国に発信したいと考えています。ご支援をお願いします。

JOINT 所長 比留間 ちづ子

〒160-0022 新宿区新宿1-32-11 山ビル3F
TEL:03-5312-0644 FAX:03-3341-7144
E-mail:going@mx5.alpha-web.ne.jp

“JOINT” とはどんなところ？ 2008

若年認知症社会参加支援センター“JOINT”は、若年認知症の方々の実践的な社会参加活動の拠点として2007年度厚生労働省補助金事業で開始され、2008年8月までNPO法人若年認知症サポートセンターが運営し、9月23日、NPO法人“JOINT”設立に向けて活動をしています。

I: 目的は、若年認知症の方々の、社会的な孤立による病状進行を予防し、持っている能力を発揮して、地域貢献活動や就労型活動によって、社会参加を維持し、本人、家族が生きて生活していける活動や地域支援を實踐していくことです。

II: 利用していただく方は、この事業の趣旨に同意し、会員として了解していただいた方で、社会参加と就労型活動に意欲のある若年認知症の方です。

且日常生活の条件として、①継続的な運動が可能(送迎付でもよい) ②食事や排泄が自立しており、日常的なコミュニケーションがほぼ自力で可能な人で、ご本人、ご家族に活動を見学していただいた上で、利用するかどうかを決めていきます。

III: スタッフ: 専任 (OT・SW・ケアマネ・パソコン技術者)。その他にサポーター参加あり。

IV: 活動日は、火曜日・木曜日の週2日、午前10時から午後3時までで、本人の状況に合わせて出勤回数を決めます。

V: 活動内容は、

制作活動、ニュースレター制作、制作作品の販売、折り込み・発送作業 等
地域貢献活動として新宿区道のサポーターや公園のサポーター、イエローバトジ(障害者運動への協力活動)販売、フォーラムの案内係り 等、事業拡大のための活動として、企業訪問、講習会開催 等、関係機関等の見学対応、マスコミ取材協力 等 など。

VI: 二日の流れ

- ① 10時、出勤、「タイムカード」を押す。朝のミーティング。出勤者を確認、作業の予定を計画し、活動開始。昼食は皆で近くの飲食店へ。昼食代は各自負担。概ね800円程。
- ② 終わりのミーティング。一日を振り返り、各自業務日誌に記録し、3時、「タイムカード」を押して、出勤。

“JOINT”は、本人同士と専門家や地域の人々が十分に語り合い、共に地域貢献活動や就労型活動を開発し、「ともに輝く地域づくり」のソフトウェアを全国に発信していくためのモデル的事業を志向しています。同時に①個人の活動記録を動画、DVD、写真で記録し、ケース検討会を開催。②医師・OT等による認知検査等の実施。③家族への支援・相談。④地域行政および企業への相談支援 ⑤支援者養成研修を開催する。外部の専門職を交えた事業評価委員会を設定し、事業活動の検証、評価を行っています。

JOINT所長 比留間 ちづ子(OT)

おりづる工務店 作業スケジュール(予定)

12. 4現在

	12月		1月		2月		3月		4月
6(土)	本町田保育園 ・園庭整備 ・砂場の盛り起こし ・靴箱の砂出し ・教室の窓拭き ・プール入口欄のペンキ塗り	3(土) 年末 年始		7(土)		7(土)		4(土)	
13(土)	山崎保育園 ・教室の窓拭き ・御漬の砂出し ・砂場の盛り起こし ・園庭整備 ・枯れ枝の剪定と整理	10(土)	町田保育園	14(土)		14(土)		11(土)	
20(土)	町田保育園 ・教室周黒縁の掃除 ・教室の窓拭き ・テラスの砂出し ・砂場の盛り起こし ファミリー・ティータイム♪	17(土)		21(土)		21(土)		18(土)	
27(土)	『おりづる工務店 大忘年会♪』 シークレットパーティー!	24(土)		28(土)		28(土)		25(土)	
		31(土)							

おりづる工務店 作業スケジュール(予定)

12. 20現在

	9月		10月		11月		12月		1月
8(土)	山崎保育園 ・靴箱ペンキ塗り ・草取り ・落葉剪定 ・園庭掃除	6(土)	町田保育園 ・床磨き(古WAX取り) ・糞肥の糞取り ・砂場盛り起こし ・テラス砂出し ・リサイクルセンター処分業務	3(土) 祝日		1(土)	山崎保育園 ・壁のペンキ塗り ・園庭テーブルペンキ塗り ・園庭掃除	5(土)	森野保育園 ・靴箱のヤスリ掛け ・園舎周辺の草取り ・園庭掃除 ・リサイクルセンター処分業務
15(土)	町田保育園 ・靴箱ペンキ塗り ・園庭掃除 ・砂場盛り起こし ・プール階段壁拭き掃除 ファミリー・ティータイム♪	13(土)	金森保育園 ・窓掃除(1階) ・園庭掃除	10(土)	本町田保育園 ・倉庫ニス塗り ・ずのこニス塗り ・ずのこニス塗り	8(土)	こうざき保育園 ・子ども家のペンキ塗り ・床ワックス掛け	12(土)	金森保育園 ・剪定後樹木のまとめ作業
22(土)	森野保育園 ・草取り ・園庭掃除 ・平本さんスイミングサークル	20(土)	町田保育園 ・床磨き(古WAX取り) ・プール階段ペンキ塗り ・靴箱砂出し ・園庭掃除 ファミリー・ティータイム♪	17(土)	『宮ヶ瀬ダムへ ご家族と共に 日帰り旅行』 工務店慰安旅行	15(土)	町田保育園 ・2階手すり錆止め塗り ・テラス砂出し ・砂場盛り起こし ファミリー・ティータイム♪	19(土)	おりづる宛かなもり 新年会 バーベキュー大会 焼き鳥&ビールもあるよ! ↓ シダックス金森店カラオケ大会
29(土)	町田保育園 ・靴箱ペンキ塗り ・テラス砂出し ・2階テラス掃除 ・床磨き(古WAX取り)	27(土)	山崎保育園 ・園舎壁掃除(水洗い) ※台風雨天のため時間短縮	24(土)	金森保育園 ・靴箱ペンキ塗り ・園庭掃除 ・樹木の剪定 ・平本さんスイミングサークル ファミリー・ティータイム♪	22(土)	本町田保育園 ・樹木の剪定 ・園庭掃除 ・落葉の剪定 ・倉庫ニス塗り(ぬ)	26(土)	町田保育園 ・巧技台ペンキ塗り ・2階手すりペンキ塗り ・金魚の水槽の水換え ファミリー・ティータイム♪
						29(土) 年末 年始			

若年性認知症デイサービス “おりづる工務店”の取り組み

社会福祉法人 町田市福祉サービス協会
おりづる苑せりがや 前田 隆行



若年性認知症ご本人の思い・・・

- 「まだまだ働きたい」
- 「人の役に立ちたい」
- 「体を動かしたい」
- 「社会経験を活かしたい」
- 「できる事からやってみたい」



若年性認知症デイサービス

男性の場合・・・

〈出勤〉→〈仕事〉→〈帰宅〉

何十年と繰り返してきた、当たり前の日常

そこには、

- ・仕事を成し遂げる充実感
- ・社会とのつながり
- ・人の役に立っているという気持ち

おりづる工務店とは？



- ・若年性認知症の男性グループ
- ・市立保育園から“仕事”を受注
- ・ボランティアとして活動
- ・自然と身体を動かす内容
- ・食事は現場付近の定食屋
- ・お茶は園児と一緒に

“会社”の雰囲気作り

- ・タイムカード
- ・打ち合わせ
- ・揃いの作業着
- ・肩書き付きの名刺
- ・リアルな仕事内容
- ・仕事は現場に出向く



仕事内容



- ・プール掃除
- ・壁のペンキ塗り
- ・園庭掃除
- ・落書き消し
- ・ワックス掛け
- ・砂場掘り起こし
- ・剪定

…等々



～ある一日の仕事～

- 10:00 事務所到着
作業着に着替え
タイムカード
今日の仕事流れ(ミーティング)
倉庫で道具準備&車両積込
- 10:30 出発
保育園到着
・プール非常階段ペンキ塗り
・床の古ワックス落とし
・砂場の掘り起こし
- 12:30 昼食(現場保育園付近の飲食店)
昼食後は保育園へ戻る
休憩(コーヒータイム)
- 13:40 午前の続き
・プール非常階段ペンキ塗り
・園庭掃除
- 15:10 現場片付け
- 15:20 園児と一緒にお茶
- 15:45 事務所到着
地下倉庫に道具片付け
タイムカード
着替え
- 16:05 終了、帰宅



成果と課題

〈成果〉

- ・社会とのつながりを保っている
- ・一般のデイサービスでは見れない表情、行動(積極性等)が見られた
- ・同年代、同性ならではの会話が弾む
- ・“勤務”を楽しみにされている
- ・生き生きと働く場面がある
- ・若年性認知症の方の想いを実現
「人の役に立っている」
「仕事を成し遂げる充実感」
「身体を目一杯動かせる」…等々
- ・発語が多くなった
- ・回覧板で活動の様子が紹介される
- ・夜よく眠れる

〈課題〉

- ・病状の進行と仕事内容のギャップ
 - ・利用者数の確保
 - ・就労支援となるため、報酬の確保
 - ・女性利用者の過ごし方
- ↓
- ・おりづるパン工房
 - ・採算性

したが、やはり「全くの外から依頼された仕事のほうの方が社会の一員と感ぜて働けるのではないかと、そして社会とのつながりが広がり、そこには普通の生活があるのではないか」という思いが強くなりました。そこで、従来から交流のあった保育園の園長先生や市役所子育て支援課の担当者に説明し、協力を仰ぎました。現在では、市内の全保育園から理解を得て、仕事の依頼が連日のように届き、年内の予定はぼろぼろと詰まっています。

その仕事内容は多岐に渡っていて、プール掃除・園庭掃除・マット下の砂出し・下駄箱等のペンキ塗り・高巻き・剪定・床置き・砂場圍り起こし・・・等々、数えると限りありません。

自宅にいると、身体を動かす機会が少なく、不安感から閉じこもりがちになり、社会との接点も限られてきてしまいましたが、工務店では皆さん同年代ということから会話内容の時代性も同じで、話も自ずと弾みます。仕事にも積極的に取り組まれ、先生や園児達に感謝される生きと過りていっているように思えます。ある方は、「まだ人の役に立てる、それが嬉しい」と言われ、毎週工務店「勤務」を非常に楽しみにされています。ご本人の（人の役に立てる）という気持ちや（仕事を成し遂げる充実感）、（社会とのつながり）を実感出来るような環境がようやく豊かになりました。仕事内容も、自然に身体を動かすし、高齢者とはまた違うストレスや欲求を克服出来るものとして定着してきています。さらに最近では、園長先生が保育園発行の便りに載せて下さったり、民生委員や町内会長さんが、自主的に同窓会で活動の様子を回して下さったりと、地域への輪が広がって、嬉しい状況でもあります。まだまだ若年性認知症のことは余り知られていませんが、「おとりづる工務店」の活動を通して地域の方々に知ってもらえるきっかけとなるといいと思います。

ただ、現在は、介護保険サービスの地域密着型認知症対応通所介護の一種として活動しています。そのため、報酬はゼロとし、ボランティアで仕事を請け負っています。料率にはやはりききません。た形で報酬を得るようにし、それを船身という形でご本人へお渡ししていきたいと考えています。そうすることで、より一層モチベーションも高まりますが、何よりも（仕事）をすれば対価として（給与）を受け取ることが一つに普通なのではないかと思うからです。それが実現できれば、厚労省で検討されている《労働支援》の一つに普通なのではないでしょうか。しかし、それにはもう少し実績を作っていくなければなりません。今は実績を作り、来るべき日に一つ一つの積み重ねたいと考えています。

また「おとりづる工務店」の現況が変化することも想定しています。皆さんのA.D.I. 底下も考えられます。まして若年性認知症は進行が早いと言われています。個人差はあるものの、病状が進行し、現在の仕事・活動が困難になった時のための過ごし方も考えておられます。その一つとして、つい先日「おとりづるパン工房」なるデイサービスをスタート致しました。このデイサービスの内容も、地域社会との交流をモットーとして、手探りながら色々な工夫を凝らしていきたいと考えています。

「認知症でもだいじょうぶ」町づくりキャンペーン2007

地域密着型認知症対応通所介護

おとりづる苑せりがや

前田 隆行

東京都町田市原町田4-24-6せりがや会館内

042-728-7413

1. 概要

おとりづる苑せりがやは、東京都町田市の駅からほど近い市街地にある認知症デイサービスセンター。デイサービスの参加者は、駅前商店街へ歩いて買い物に行く日もありますが、そのおとりづる苑せりがやの母体は、社会福祉法人町田市福祉サービス協会です。元々、認知症の分野に特化して力を注いできました。

そんな中で、人数は少ないものの何名かの若年性認知症の方がデイサービスを利用し始めました。しかし周りの方と比べると断然若く、ご本人も「ここは自分の来る所ではない」と思われていました。それもその筈で、周りの高齢者は皆80歳～90歳とご自分の両親と変わらない、もしくはそれより上の方たちばかりの方から、おとりづる苑せりがやは、高齢者にとってはかなりの活動的なですが、それでもやはり高齢者向けの時間が増えたり、デイサービスに変わりはありません。そこで、彼らに対して何が出来るのかを考察していたところ、一人の若年性認知症の方が居られました。その方も「自分のいる所ではない」と例外なく思われていたことが、法人が賛成してある民家の修繕を男性スタッフと二人でするようになる。生き生きと汗を流して働く姿がそこにはありません。

若年性認知症の男女比率は男性が多く、その多くの方が在職中に発症され退職を余儀なくされていきます。実際に想いを聞いてみると「まだまだ働きたい」「まだ身体は動くし、今までの社会経験を活かして人の役に立ちたい」と、皆さん口を揃えて言われます。そこで、修繕等と一緒に活動したケア経験を話して、若年性認知症の方のデイサービスを充足してみようと思いましたが、何か会社のような組織を作り、目一杯、一日身体を動かしながら社会とつながっている実感と、仕事を成し遂げたという充実感が持て、役に立っているという気持ちを感じることが出来る場所」と考えて始めたのがおとりづる苑せりがやの若年性認知症デイサービス「おとりづる工務店」です。

まず環境を整えて「仕事」という雰囲気を作り上げるために、朝、利用者・スタッフと同じ作業着に着替え「出勤（来社）退社（帰社）」時に事務所のタイムカードをそれぞれ押印して聞いています。作業着には「おとりづる工務店」とネームの刺繍入り。また名前もそれぞれが持ち歩き、今までの経験を活かす形での履きまも付いています。それこそ活動当初は、以前と同じように民家の修繕や倉庫整理等を行なっていた



2. 地域の紹介

おりづる産せりがや（おりづる工務店）がある東京都町田市は、東京都の中心部よりやや西側に位置し、楕圓形で八王子市や相模原市、横浜市、川崎市等に隣接しています。古くは縄文時代まで遡り、多摩丘陵地域で生活していたとされる遺跡が数多く出土しています。

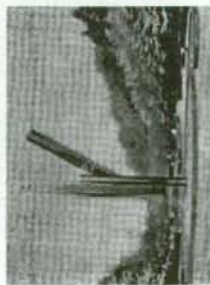
現在は、その見直し調査の跡地にマンモス団地が建設され、現在も「団地の町」と呼ばれています。その「団地の町」でも団塊の世代や高齢者世帯が圧倒的多数を占めていて、今後の高齢化社会を迎えるにあたり、一つの課題となっています。

総人口は415,848人となっており、毎月の人口増加傾向に伴い高齢者向けのサービスは充実しています。ただ、若年性認知症の方向けのサービスは他の地域と同じように皆無に等しく、おりづる産せりがや（おりづる工務店）だけです。

若年性認知症の方は、高齢期認知症の方と比べると人数は少ないのですが、実際に少ないながらもサービスを利用し始めました。そこで必要性から、「おりづる工務店」が誕生しました。

最寄り駅は、JR横浜線、小田急線の町田駅で、駅前的小からある商店街を抜けて市立芦ヶ谷公園を目指します。市立芦ヶ谷公園はかなり広く、家庭連れに人気のスポーツで、四季折々の季節が楽しめます。園内美術館も併設していることもあり、美術や芸術に触れることも出来ます。

また、園内では、現在も湧き水があり、この水を利用した大きなシンボルマークの噴水があり、夏になると子供たちの遊び場になっています。この公園の隣という好立地におりづる産せりがや（おりづる工務店）があります。



3. 活動の内容

【若年性認知症サービス発足まで】

最近、人数は少ないものの何名かの若年性認知症の方が、デイサービスを利用し始めました。しかし周りの方と比べると断然若く、ご本人も「ここは自分の来る所ではない」と思われていました。それもその筈で、周りの高齢者は80歳〜90歳とご自分の両親と変わらない、もしくはそれよりも上の方たちばかりです。おりづる産せりがやは、高齢者にとってはかなり活動的な方ですが、それでもやはり高齢者向けの時間が残るデイサービスには変わりはありません。若年性認知症の方をデイサービスに合わせるのではなく、デイサービスに合わせるように、そこで、彼らに対して何ができるのか考察していました。そうした時、一人の若年性認知症の方が訪れてきました。その方も「自分のいる所ではない」と例えなく思われていましたが、法人が賃借している民家の修繕を男性スタッフと二人でするようになると、生き生きと汗を流して働く姿がそこにはありません。

若年性認知症の男女比率は男性が多く、その多くの方が在職中に発症され退職を余儀なくされています。実際に思いを聞いてみると「まだまだ働きたい」「まだ身体も動くし、今までの社会経験を活かして人の役に立ちたい」と皆さん口を揃えて言われます。そこで、修繕と一緒に活動したケア経験等を活かして、若年性認知症の方のデイサービスを発足してみようと思いましたが、『何か会社のような組織を作り、目一杯、一日身体を動かしながら社会とつながっている実感と仕事を成し遂げたという実感が持て、役に立っているという気持ちを感じることが出来る場所』を目指しました。それにはデイサービスの壁を破るような斬新な考えが必要でした。まず特に男性は「仕事」が生きていなければならないこと、加えて、高齢者とはまた違ったストレスや欲求を抱えている彼らが、自然に身体を動かしてそれらを発散出来るような仕組みが必要だと考えました。（人の役に立っているという気持ち）も視野に入れると、やはり外での仕事、活動となるのではないかと考えました。そこで、まず環境を整えて「仕事」という雰囲気を作り上げました。朝、利用者・スタッフが同じ作業所に着替え、「出勤（来苑）・退勤（帰苑）」時に事務所のタイムカードをそれぞれ押して頂いています。作業中には「おりづる工務店」とチームの刺繍入り、また名前もそれぞれが持ち歩き、今までの経験を活かす形での履きも付いています。

次に活動内容として、当初は、以前と同じように民家の修繕や倉庫整理等を行っていましたが、やはり『全くの外部から依頼された仕事の方が社会の一員と感じて頂けるのではないかと、そして社会とのつながりが広がり、そこには普通の生活があるのではないかと』という思いが強くなりました。そこで、従来から交流のあった保育園の園長先生や市役所子育て支援課の担当者にも説明し、協力を仰ぎました。現在では、市内の全保育園から理解を得て、仕事の依頼が連日のように届き、年内の予定はぎっしりと詰まっています。



その点を見極める必要性がありました。まずはやってみて、保育園の先生と相談しながら、その内容に近い仕事を繰り返し返していました。

その他にも、保育園の先生が、若年性認知症についての知識がそれほど多くはなかったことで、保育園へ行くとも園児達を教室の中へ誘導し、在事中は園児の全くいない園庭等での活動となったこともありました。これは正直寂しかったんです。今では、先生にもご理解頂き、園児が大勢いる中で仕事となってきました。ちょっぴりを出して逃げる園児を、「しょうがねえなあ」と嬉しそうに見守る社会の一員がそこにはいます。

またまた、保育園では難務の仕事に追われていたことと、先生は女性が多く力仕事的なものは敬遠しがちだったこと、また大きな補修や修繕は予算的に使用しに限りがちなことにも二重三重がありました。おりづる所せりがや（おりづる工務店）としても本人の（人の役に立っているという気持ち）や（仕事を成し遂げる充実感）、（社会とのつながり）がまさに実感出来るものと思ひ、仕事内容としても、自然に身体を動かす、それらを発散出来るものとして二重三重がありました。ここにすばらしい出会いがありました。仕事の依頼は絶えることが無いほどに頼まれて、仕事はやほりそれなりに完成度が高いものを提供していかなければならぬと思ひます。それは、将来の報酬を得るという考えの下、その完成度を維持していかなければ報酬は発生していかないと思ひますし、完成度が低くなつた時点で仕事の依頼も少なくなってくるだろうと考えています。そこをフォローするのが私たちの仕事です。

目でも身体を動かす機会が少なく、社会との接点も限られてきてしまいがちですが、工務店では皆さん同年代ということから会話内容の時代背景も同じで、話も自ずと弾みます。仕事にも積極的に取り組まれ、先生や園児達に感謝内、生き生きと過ごされているように思ひます。ある方は、「まだ人の役に立っている。それが嬉しい」と言われ、毎週の工務店「勤務」を非常に楽しみにされています。



【ある一日の仕事】

- 10:00 事務所到着
- 作業着に着替え
- タイムカード
- 今日の仕事流れ説明
- 倉庫で道具準備＆車両積込
- 10:30 出発
- 保育園到着
- ・プール非常階段ペンキ塗り
- ・床の古ワックス落とし
- ・砂場の圍り起こし
- 12:30 昼食（現場保育園付近の飲食店）
- 昼食後は保育園へ戻る
- 休憩 → 園庭でサッカー
- 13:40
- 午前の続き
- ・園庭掃除
- ・プール非常階段ペンキ塗り
- 15:20 お茶、片付け、撤収開始
- 15:45 事務所到着
- 地下倉庫に道具片付け
- タイムカード
- 着替え
- 16:10 終了

【保育園での仕事～就労支援の一手手前～】

現在は、介護保険サービスの地域密着型認知症対応通所介護の一種として活動しています。そのため、報酬はゼロとし、ボランティアで仕事を請け負っています。将来的にはやはりきんさんとした形で報酬を得られるようにし、それを給与という形でご本人へお渡ししていきたいと考えています。そうすることでより一層モチベーションも高まります。何より「仕事」をすれば対価として（給与）を受け取ることは至って普通のことだと思っております。それが実現できれば、厚労省で検討されている「就労支援」の一つになるのではないのでしょうか。一度、一般的な考えから、ご家族よりお預かりした金額をそのまま給与袋に入れてご本人にお渡ししたこともありましたが、最近まで一家の大黒柱として社会の第一線で働いてきたこと、それなりの格身額を受け取っていたことからすると、「何か違う」という思いもありましたし、ご家族からの「騙している感じがする」という意見もあり、中止しました。実現すべきはやはり介護保険サービスの中であっても、もしくは介護保険サービスとは別の外部団体となつても、報酬を得ることが可能な仕組みを考えていく、もしくは作っていくことだと思います。現在は就労支援の一手手前という事です。

今では、保育園から依頼される仕事内容は多岐に渡っていて、プール掃除・園庭掃除・マツト下の砂出し・下駄箱等のペンキ塗り・落書き消し・郵便・床磨き・郵便配り直し・・・等々、数えれば限りないです。当初、若年性認知症の方々とどんな仕事が出来るとのわがかりませんでしたので、

若年性認知症に「おりづる」の挑戦
2007年10月号
おきづる工務店の挑戦



「おりづる」は、若年性認知症の方々の生活を支えるために、様々な取り組みを行っています。その中でも、保育園での仕事は、彼らにとって大きな意味を持っています。先生や園児達からの感謝や、生き生きと過ごされている様子を見て、私たちはとても嬉しく思います。また、彼ら自身が「まだ人の役に立っている」と感じてくれていることも、私たちの大きな励みです。

この取り組みは、社会全体で認知症に対する理解を深め、支援体制を整えるための重要な一歩です。今後も、様々な課題に取り組んでいき、より良い社会の実現を目指してまいります。

4. 活動の成果と今後の展望

【成果】

自宅にいと、身体を動かす機会が少なく、不安感から閉じこもりがちになり、社会との接点も限られてきてしまいますが、工務店では皆さん同年代ということから会話内容の時代背景も同じで、話も自ずと弾みます。仕事にも積極的に取り組まれ、保育園の先生や親友達に感謝され、生き生きと過ごされているように思っています。ある方は、「まだ人の役に立てる、それが嬉しい」と言われ、毎週「工務店“勤務”」を非常に楽しみにされています。ご本人の「人の役に立っている」という気持ち(や「仕事を成し遂げる充実感」(社会とのつながり)を実感出来るような環境がようやく整い始めました。仕事内容も、自然に身体を動かす、高齢者とはまた違うストレスや欲求を充てられるものとして定着してきています。当初の「会社のような組織を作り、日一杯、一日身体を動かしながら、社会とつながっている実感」と、仕事を成し遂げたという充実感が持て、役に立っているという気持ちを感じることが出来る場所を作りたい」という目的は果たせたと思います。

また保育園の先生が、若年性認知症についての知識がそれほど多くはなかったのですが、仕事をしながらいくと、先生にもご理解頂く事が出来、園児が大勢いる中で仕事となくなってきました。園長先生が保育園発行の便りに載せて下さったり、民生委員や町内会長さんが、自主的に同僚飯で活動の様子を回して下さったりと、地域への輪が広がります。嬉しい状況でもあります。まだまだ若年性認知症の事は余り知られていませんが、「おろづる工務店」の活動を通して地域の方々にも知ってもらえるきっかけとなっていると思います。

園児がちょっぴりを出して逃げる。「しょうがねえなあ」と感じそうに園児を見守る社会の一人がそこにいます。他の仲間やスタッフ、保育園の先生はもちろんですが、園児だけではなく園児の保護者や関係者、昼食の飲食店従業員、そのお客、すれ違う人々、まさに地域社会との交流で、地域の様々な方と話し会話をするという事は、それこそが普通の生活であり、私たちも同じことをしている者です。

【今後の展望】

現在は、先に述べましたとおりの介護保険サービスと地域密着型認知症対応通所介護の一環として活動しているため、報酬はゼロとし、ボランティアで仕事を請け負っています。将来的にはやはりきちんとした形で報酬を得られるようにし、それを給与という形でご本人へお渡ししていきたいと考えています。そうすることでより一層モチベーションも高まりますし、何よりも【仕事】をすれば対価として【給与】を受け取ることが出来て普通のことだと思えるからで、それが実現できれば、厚労省で検討されている《健労支援》の一つになるのではないのでしょうか。しかし、それにはもう少し実績を作っていくかなければなりません。今は実績を作り、来るべき日に向けて一つ一つの積み重ねだと思っています。

また「おろづる工務店」の現況が変化することも想定しています。皆さんのADL低下も考えられます。まして若年性認知症は進行が早いと言われています。個人差はあるものの病状が進行し、現在の仕事・活動が困難になった時のための過ごし方も考えておきます。その一つとして、つい先日「おろづるパン工房」なるデイサービスをスタート致しました。このデイサービスの内容も(地域社会との交流)をモットーとして、手探りながら工夫を図っていきたくと考えています。

大切なことは、若くして認知症になっても笑って、安心して普通に戻れる町になればという思いと、若年性認知症の方を敬遠するのではなく、私たちに出来るものから始めていくことだと思えます。これをきっかけに、若年性認知症デイサービスが全国へ広がることを願います。

平成 20 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

「精神保健医療福祉の改革ビジョンの成果に関する研究」

分担研究報告書

精神保健医療の現状把握に関する研究

研究分担者 立森 久照 (国立精神・神経センター精神保健研究所)
研究協力者 小山 明日香 (国立精神・神経センター精神保健研究所)
河野 稔明 (国立精神・神経センター精神保健研究所)
長沼 洋一 (国立精神・神経センター精神保健研究所)
研究代表者 竹島 正 (国立精神・神経センター精神保健研究所)

研究要旨：

【目的】2006年の精神保健福祉資料のデータを用いて精神科医療施設の従業者、および精神科診療所の概況を明らかにすることを目的とした。

【方法】厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課が、都道府県・政令指定都市の精神保健福祉主管部（局）長に文書依頼を行い収集した全国精神科医療施設などの状況についての資料を精神・障害保健課の許可を得て二次的に分析した。本研究では2006（平成18）年の調査の精神科医療施設の従業者および精神科診療所についてのデータを使用した。このデータはわが国の精神病床を有する病院および精神科診療所の悉皆調査によるものである。

【結果】人口10万対の常勤換算をした精神科医療機関の従業者数は、全国値で医師11.9、看護師（准看護師を含む）89.3、PSW5.7であった。この数値は、都道府県間で医師で約3倍、看護師で約4倍、PSWで約6倍の違いがあり、日本の中央部の都道府県が少なく、周辺部の都道府県が多かった。精神科診療所は全国に2,774施設あり、人口10万対の精神科診療所数の全国値は2.18、都道府県間では最大でおよそ4倍の違いがあった。人口10万対の精神科診療所数が多い都道府県は西日本に多く、特に近畿から中国地方に多い。精神科診療所の一カ月間の外来患者延べ数は全国で2,294,152名であり、その中央値は670.0名であった。一日あたりでは114,808名の外来受診者があり、その8割近くが主たる病名が精神保健福祉法第5条に定められた「精神障害者」に該当する者であった。

【結論】精神科医療施設の従業者、および精神科診療所の概況を明らかにすることができた。人口あたりの従業者数は都道府県間で違いがあったが、なぜこのような違いが生じたのか、またこの違いによりサービス利用者に不利益が生じていないかを調べる必要がある。受診者数の面からみると精神科診療所が精神科通院医療で果たしている役割は精神科病院と量的には同程度といえる。精神保健福祉資料のデータを利用して精神科診療所の全体像について継続して実態を把握するとともに、診療所の利用者の詳細を把握する必要があると思われた。